

# 香りぬくもり学ぶ心刺激

## 長岡家具組合と造形大

### 越後杉で机、椅子製作

表町小1年  
モニタ― 販路拡大を目指す

長岡市の長岡木工家具協同組合と長岡造形大学の研究室が越後杉を使った小学校用の机と椅子を共同で製作した。7日にはモニタ―として、同市の表町小学校で1年生37人全員が使い始めた。木の香りとぬくもりが特長で、大きな需要が見込める教育施設への販路開拓を目指す。

長に合わせて高さが調節できるように工夫したほか、取り外して交換可能

な天板は、卒業の際に記念品とすることも想定している。  
後藤教授は「木の家具はスチール製品が登場する前からずっと使われていた。今後、どう売り込めかが課題だ」と話す。  
この日は、入学式を終えたばかりの1年生が早速、顔を近づけて匂いを嗅いだり、手で触ったりしていた。八百板駿君(6)は「いい匂いがした。使るのが楽しみ」と笑顔。  
同組合の石坂松三理事長は「丁寧になんて使わなくていい。自分の大事な宝物にしてほしい」と思いを込めた。



越後杉を使った机と椅子の感触を確かめる表町小学校の1年生。7日、長岡市中島5

杉材の地産地消拡大を目的に、2009年から同組合と同大建築・環境デザイン学科の後藤哲男教授の研究室が取り組みを開始。10年度に市の補助事業を活用し、約1年かけて完成させた。産業として定着させることで、林業や製材業、家具製造業の活性化も狙う。  
杉は軽く、触った時に温かみがある。軟らかいのが難点だったが、くぎなどを使わずに木材を組む伝統的な工法で強度を確保。試作を約20回繰り返し、県工業技術総合研究所で衝撃耐久試験に合格した。子どもたちの成